

## 平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小川アルプスライン PR 事業
事業主体 (連絡先)	小川アルプスライン PR 事業実行委員会 026-269-2323
事業区分	⑥ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,975,366 円 (うち支援金 : 2,765,000 円)

### 事業内容

タクシープランを造成し二次交通の整備をすることにより広域周遊型観光を視野に入れながら小川アルプスラインを通り村内へ導くために、一年を通してのイベントを実施するもの。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①長野駅からの二次交通整備につて 150 人以上という目標に対し、14 人となった。目標を大きく下回ったが、長野駅発のタクシープランには、県外からの申込者が多い事が分かり県外への宣伝の見直しが必要となった。
- ②春には立屋で桜ウィーク・夜桜まつりを開催し昨年 1700 人に対し、今年は 2000 人の来場となり上回る結果となった。5 月には新イベント大洞高原にて各種出展、体験コーナー、ナイトシアター上映で 3000 人の来場となった。2 月にも新イベント冬の大洞高原にて雪遊びをはじめ光の切り絵の幻灯を開催し 700 人の来場で一年を通し商業振興が図れた。
- ③年間を通し 320 通の応募があり再来を促し商業振興につなげることができた。



【ナイトシアター】

### 【目標・ねらい】

- ①長野駅からの二次交通整備
- ②小川アルプスライン沿線を PR するイベントの開催
- ③スタンプラリー年間を通しての再来を促す

### ※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

イベント事業は昨年を上回る入込だったが、二次交通整備については大きく目標値に及ばず今後の課題となったため。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

例年春の観光については定着してきており来村者は急増している。しかし、商業振興にはなかなか結びつかないのが現状である。そこで地元の人と協力して、春の桜シーズン中は郷土食をはじめ工芸品等もアルプスラインで販売できるように働きかけたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)